



丹波市初の女性救急救命士
 うらさわももか
 浦澤百香 隊員

救急救命士の1日

丹波市消防本部には、現在33人の救急救命士が活動しています。24時間勤務となっており、勤務中にはいつでも出動できる体制をとっています。日によっては、ほぼ仮眠をとる間もないこともあります。



8:30 ~	12:30	16:30	20:30
~12:00 引継ぎ・車両点検等 執務・訓練	12:00 ~ 13:00 昼食	13:00 ~ 17:30 執務・訓練	17:30 ~ 19:00 入浴・夕食 19:00 ~ 執務
20:30 ~	0:30	4:30	8:30
~22:00 執務	22:00 ~ 6:00 夜間勤務・仮眠	6:00 ~ 8:30 車両点検・清掃・ 執務	

丹波市初の女性救急救命士が誕生



学生時代に運動部で鍛えた体力を生かし、人の役にたてる仕事がしたいと、今年の6月から消防本部で活動している丹波市初の女性救急救命士を紹介します。

8月下旬。連日続く猛暑の下、消防本部で男性に交じって真剣な表情で訓練に励む浦澤百香隊員を見つけてきました。昨年4月に市職員に採用されてから、救急救命士として働くための病院実習を終え、6月16日から男性救急救命士32人とともに、市民の命を守る救急救命士として活動を始めています。

浦澤隊員が救急救命士を目指すようになったのは、高校3年生のとき。中学・高校と運動部に所属し、体力に自信があったので体を動かす仕事に就きたいと考えていたところ、進路指導で現役の女性救急救命士と出会いました。「人の命を守る大切な仕事」に取り組み女性救急救命士に憧れを抱き、救急救命士になるんだという強い気持ちで芽生えました。

高校卒業後は、2年間専門学校で医療の勉強と実習に取り組み、救急救命士の国家資格を取得しました。救急救命士にできる医療行為が少しずつ増えてきている中、救急救命士になる夢を叶えた今でも、毎日勉強して知識を取り入れていく必要があります。どんな現場にも対応できる救急救命士になり、大切な命を守るため、日々訓練に励んでいます。

救急救命士の仕事とは

救急車で患者を病院まで搬送する途中、患者に心肺停止などの緊急事態が発生した際に、医師の指示の下で医療的な救命処置を行う仕事です。具体的には、心肺停止時の電気ショックや薬剤の投与、器具を使った気道確保や気管挿管など「特定行為」と呼ばれるもので、これらの救命処置は、消防士のうち救急救命士の国家資格を持った者のみに認められています。

浦澤百香隊員にインタビュー

Q 救急救命士を目指すにあたって苦労したことは？
 A 2年間専門学校で、救急救命士になるための勉強を必死に頑張りました。救急救命士ができる処置が増えたので、覚えるのが大変でした。

Q 仕事で苦労することは？
 A 消防本部では、消防と救急どちらの仕事もします。男性と同じ訓練をするので15mのロープやはしごを上ったりもするし、ホースを運んだりもします。かなりの体力を使うところが大変です。

Q 救急救命士の仕事のどんなところにやりがいを感じますか？
 A 1番は人の役にたてることです。救急搬送した方や家族から感謝の言葉をいただいた時に、やりがいを感じます。

Q 工作中、心がけていることは？
 A 毎回出勤時には、現場がどのような状況かわからないので常に緊張します。冷静さを保ち平常心で活動することを心がけています。

Q 救急救命士を目指す人にアドバイス
 A 救急救命士になりたいという気持ちを持ち、何事にもめげずやり抜くことが大切。私自身も一つひとつクリアしてきました。私は決して、優秀ではありませんが、救急救命士になってよかったです。

Q 意気込み
 A 女性第1号としてのプレッシャーを励みにし一生懸命頑張ります。将来的には、女性の救急救命士が増えれば嬉しいです。

Q どんな救急救命士になりたいか？
 A 女性ならではのきめ細やかな対応に心がけ、女性の視点を活かしながら活動できる救急救命士になりたいです。

好きな言葉は「感謝」です。家族、友達、同僚、お世話になった方々にも感謝しています。